

テーマ

# 日本語の「は」を中心とする 文構造の不思議を探ろう

適用  
分野

日本語学



研究  
名称

日本語の「は」と「が」の本質

氏名  
所属

谷守正寛・教授  
全学共通教育センター

内容

## ●特徴

これまで必ずしも整合的に説明できていたとは言えない「は」の性質について、新しい視点から説明を試みながら、その本質をより一貫性のある捉え方で探る。また、「が」の主格表示以外の性質に起因すると予想する日本語独特の文構造の成り立ちについて、合理的に説明できる理論の構築をめざす。それによって、日本語の特に名詞文や「～は...がー」文の持つ不思議さが従前よりは解消される可能性がある。

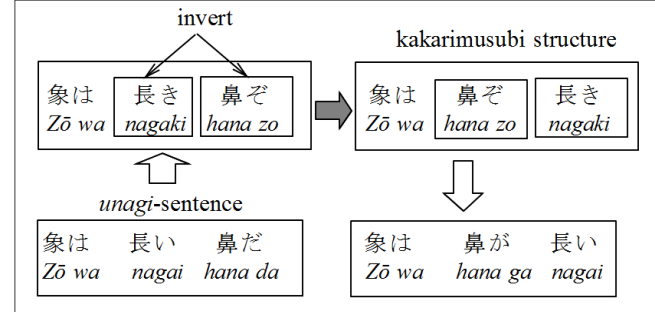
## ●研究内容

- (1) 「わたしは牛丼を食べるーじゃ、ぼくはウナギだ」といった対話で表れるウナギ文について、文末の「だ」が「を食べる」の代用をするという説に対して、「は」がどのように文末名詞をとるかに関する独自の理論によって新しい説明を行っている（拙著論文 A Study of Topic of Sentences, 1995）
- (2) 上の理論に基づいて、「ぼくは明日帰る予定だ」といった体言締め文における「は」と文末名詞（この場合「予定」）との関係、結びつき方を整合的に説く。
- (3) 「象は鼻が長い」における「が」についてそれ本来の持つ属格の性質の残存に注目し、上の(1)の考え方と組み合わせることによって、さらには、やはり依然すっきりとしていない係結び文という独特の構文における係助詞「ぞ」等で強調される語と文末の連体形用言（「こそ」に対しては已然形用言）との関係をめぐるその強調構文としての構造的特徴に関

する独自の解釈に加えて、先行研究における「ぞ」と「が」の関係（室町時代以降に置き代わったとされる）についての論考を援用しつつ、同じく依然すっきりとしていない「象は鼻が長い」といった日本語の基幹構文の真相を解明していく。

以上、(1)(2)(3)の捉え方を、一貫した「は」の理論で説明ができるように整備することによって、従前より曖昧模糊としていた「は」（及び「は」に対峙する「が」）について、より截然としたとした捉え方ができるものとなるとみている。

次図は、上の考えにより、ウナギ文（現代語・古文）、係結び文、ゾの消失とガの台頭、連体形終止の関係を示しつつ「象は鼻が長い」文の成り立ちを概観したものである。



## 関連拙著論文（一部）

- ・ The Binding Particle Koso and the Position of the Japanese Topic in Kakarimusubi with Koso
- ・ A Study of the Essential Nature Common to Various Core Types of Japanese Topic
- ・ Japanese Nominal and Verbal Sentences seen from the viewpoint of the Topic and Kakarimusubi
- ・ A Study on the Syntactic Problems of Japanese Nominal and Adjectival Copula Sentences with a Topic
- ・ A STUDY OF ESSENTIAL JAPANESE TOPICALIZATION

いずれも『言語と文化』23-27号，甲南大学国際言語文化センター。

キーワード

「は」，「が」，係り結び，係助詞，ウナギ文

連携方法

- 講演
- 研修
- 研究相談
- 学術調査
- コメントート
- 共同研究